

平和を作り出す者の幸い

今からおよそ七百年前、かの有名なアッシジの聖フランシスは次のような祈りをもって神の前に生きたという。「神よ、あなたの平和の器とならせてください。憎しみあるところには愛の種をまき、間違いあるところにはゆるし、疑いあるところには信仰を、望みなきところには希望を、暗きところには光を、もたらす者とならせてください。おお、聖なる神よ、慰めを求めるよりは人を慰める者と、理解されるよりは理解する者に、愛されるよりは愛する者とならせてください。与えてこそ受くるのであり、ゆるしてこそゆるされ、死してこそ永遠の命に生きることができるのです。アーメン」。

心打つ美しい祈りである。このような祈りを祈り、このような祈りに生きることができるならどんなにか素晴らしいことであろう。私たちの主イエスは「八福のメッセージ」において教えているのもこのような生き方である。神の平和の器として、生のすべての領域において、隣人との様々な人間関係の中に平和を作り出して生きる生き方—これが神の国に属する者とされた神の子ら（キリスト者）のこの世における特性であることを語られた。「平和を作り出す（実現する／新共同訳）人たちは幸いである。彼らは神の子らと呼ばれるであろう」（マタイ5：9／口語訳）。

ここで「平和を実現する／作り出す」と訳されている言葉は原語では“エイレーネポイオス”という一字で、“エイレーネ”と“ポイオス”の合成語で、文字通り“ピース・メイカー（peace—maker）”である。キリスト者は単に「平和で穏やかな人」とか「平和を愛する人」であるだけではなく、積極的に「自ら平和を作り出す人」でなければならないことが強調されているように思える。

その意味で、それを真に体現して下さった方は主イエス・キリストご自身であり、主こそ真のエイレーネポイオスであられた。主は、十字架において自ら血を流されることによって人間の罪を贖い、敵対する人間を神と和解させ（コロサイ1：20、ローマ5：1）、また人と人との間を隔てる敵意という隔ての中垣を取り除き、真の平和と一致をもたらす「我らの平和」となられた（エフェソ2：14）。それゆえ彼は「平和の君」と呼ばれ（イザヤ9：6、第2テサロニケ3：16）、その福音は「平和の福音」「和解の福音」（使徒10：36ローマ10：5、第2コリント5：19）と呼ばれている。

私たちは皆、キリストの十字架の贖いのみ業によって神との平和に生きる者とされた。その恵みに生かされている私たちも「平和を作り出す人」としてこの世に生きるように召されている。或る注解者の言葉を借りれば、「芸術家が作品を、建築士が家を、商売人が利潤を、ドレスメイカーがドレスを作り出していくように」、キリスト者は平和を作り出して生きる、これがこの世におけるキリスト者の特性であり、また使命であると主は言われる。

今の時代はなんとそのような人を必要としていることであろうか。教会もそのように人々に祝福をもたらして生きる「平和の器」たちを必要としている。私たちもそのような「平和の器」とならせていただきたいと思う。